

MOX燃料輸送は、シェルブール港のクレーンの故障のため、燃料の一部を輸送船に積み込めず、7日予定した出発は延期となりました（船は外洋で待機中）。今後クレーンの修理後に再開される予定ですが、続けて輸送に反対していきます。（9月8日）

抗議声明（2022.9.7）

高浜原発用の MOX 燃料の輸送に強く抗議する

本日（2022.9.7）関西電力の高浜原発用の MOX 燃料がフランスのシェルブール港を出港した。高浜3・4号炉のプルサーマルを継続するための輸送であり、輸送自体が危険を伴う。この輸送に強く抗議する。

今回は、関電が32体発注した「第3回製造分」のうち、昨年11月に16体到着した残りの分（おそらく16体）である。このように小分けにして製造したのは、製造会社・MELOX社の機能が正常でなく、製造能力が著しく落ちているためである。たとえば2015年には124トン製造したのに、2021年には51トンと約4割に落ち込んでいる。それに関連して、MOX燃料に危険なプルトニウム・スポット（プルトニウムの塊）が生じていることがフランスでは大きな問題になっている。

そもそもプルサーマルは、本来ウラン燃料を燃やすはずの炉で、異質な核特性をもつプルトニウムを燃やすものである。特にプルトニウム・スポットがあるとその部分が異常に激しい燃え方をするので危険である。品質の疑わしいこのようなMOX燃料は使うべきではない。

フランスでのMOX製造能力が落ちるに伴って、それに全面的に依存している高浜原発のプルサーマル規模も落ちてきている。本来なら1基当たり40体のMOXを用いるはずが、せいぜい半分の20体にとどまっている。

高浜3・4号炉はただでさえ危険な原子炉である。両炉でこれまで6回も立て続けに蒸気発生器伝熱管（細管）の外側が削られるという事故を起こしている。伝熱管の厚み1.27mmが最小で約0.5mmにまで薄くなり、それで約100気圧差を支えている。その傷の原因となったとされる異物またはスケール（鉄の微粒子の薄片）は、未だ明確に特定されていない。すなわち原因が不明のまま運転を続けている。そこに危険なMOX燃料を燃やすなど、もってのほかである。

MOX燃料を燃やせば使用済みMOX燃料が生まれるが、これは現状では運びだす所がなく、原発敷地内のプールで100年以上も保管するしかない。子々孫々に多大な負担を強いることになる。このような使用済み燃料を生み出すMOX燃料は使用すべきでないことは明らかである。

MOX燃料を用いるプルサーマルは即刻中止すべきだ。プルトニウムを生み出す六ヶ所再処理工場は26回目の完工延期を9月7日にも決定する。高レベル廃棄物処理も決まっていない。核燃料サイクルはそのあり方を全面的に根本から見直すべきである。

2022年9月7日

グリーン・アクション

京都市左京区田中関田町 22-75-103 Tel : 075-701-7223 Fax : 075-702-1952

美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会（美浜の会）

大阪市北区西天満 4-3-3 星光ビル 3階 Tel : 06-6367-6580 Fax : 06-6367-6581